

消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404
FAX 984-4011

地震が起こる前に 備えよう！地震対策



大きな地震が発生したとき、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。いざというとき、「慌てず、落ち着いて」行動するために、日頃から地震の際の正しい心構えを身に付けておくことが大切です。

▶ 地震が起こる前に

- ① 自宅から避難所までのルートを事前に確認する。
- ② 地震のときに慌てず行動できるよう、普段から家族で話し合い、情報を共有しておく。
- ③ 家具の下敷きにならないよう、家具の転倒防止対策や配置を工夫する。
- ④ 地域の防災訓練に参加し、災害発生時の対応方法を身に付ける。
- ⑤ 避難するときに持ち出す「非常持ち出し品」を準備しておく。(非常持ち出し品の例：水や食料、懐中電灯、ラジオ、簡易トイレなど)
※ 自宅にとどまるための「備蓄品」は、7日分を目安に準備する。

▶ 地震発生直後

- ① 【屋内】机の下に隠れるなど、まずは身を守ることを第一に。【屋外】落下物に注意し、手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。
- ② 大きな揺れが収まってから火の始末をする。揺れが激しいときは無理をしない。

▶ 地震発生後

- ① 避難するときは、ガラスの破片などから足を守るため必ず靴を履く。
- ② 車を使って避難すると、緊急車両や避難者の邪魔になるため、基本的に歩いて避難する。
- ③ 車の運転中に地震が起きた場合は、緊急車両が通行できるように道路の左側に寄せて止め、鍵を付けたままにしておく。
- ④ 1人暮らしの高齢者や、要配慮者がいる家には積極的に声を掛けて安否を確認する。火が出たら大声で知らせ、協力して消火をする。

▶ 避難するか迷ったときは

原則、自宅の倒壊や火災などの被害が発生したら避難の必要がありますが、そうでなければ避難する必要はありません。大きな揺れが収まったら、避難が必要かどうかを見極めてから行動しましょう。

【3つの判断ポイント】

- 1 家の倒壊など、自分の身に危険があると判断したとき
- 2 近隣に火災などの危険があるとき
- 3 避難勧告や避難指示(緊急)が発令されたとき

▶ 避難所生活での注意点

- ① 衛生管理に注意する。
- ② 集団生活のルールを守る。
- ③ 助け合いの心を忘れずに。



News

3月1日～3月7日

春季全国火災予防運動

火を消して 不安を消して つなぐ未来

3月1日(金)から7日(木)までの7日間、全国一斉に春季火災予防運動が行われます。

皆さんも、この機会に火災の恐ろしさを再認識し、火災から「生命」「身体」「財産」を守るため、普段からできる対策を考えてみましょう。



【提供元】一般財団法人
日本防火・危機管理促進協会